

第6回 北信越体育・保健体育ネットワーク研究会

～トキめき新潟ラウンド～【ご報告】

<H29. 11. 12 (土) 新潟市「プラスサード」>

第6回「トキめきラウンド」を開催いたしました。県内各地から、行政・大学・高校・小学校の教育関係者20名の方にご参加いただきました。ネットワーク常連の先生方から初参加の先生方まで、共に濃密な時間を過ごし、熱いディスカッションが展開されました。

1 話題提供「新学習指導要領について考えよう 『わかる』と『できる』をつなぐ知識の検討」

桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授から、改訂された学習指導要領の趣旨や内容等も含めながら、体育・保健体育科における知識の構造化についてもお話をいただきました。

マット運動で行う「ゆりかご」を例に「具体知」「方法知」「概念知」について、分かりやすく解説をしていただきました。

- 何を教えるのか（概念知）…汎用性の高いコア・コンセプト、「回転力と順次接触」
- どのように（方法知）…課題解決の仕方、運動観察の仕方
- 何が身に付くのか（具体知）…行い方のコツ、ポイント

「わかる」と「できる」をつなぐ手立てについて、メモを取りながら熱心に耳を傾ける姿が見られました。



2 「全国学体連 和歌山大会で学んだこと」

燕市教育委員会 主幹 長谷川 智 先生から、全国学体連の報告がありました。高田調査官からの新学習指導要領の解説や、中之島小学校での実践の様子についてVTRを含めて紹介していただきました。また、今年度から優秀教員表彰事業がスタートし、全国から5名の方が表彰された中、本ラウンドに参加した近藤 拓自 先生が表彰されたことも報告がありました。おめでとうございます。



3 「新指導要領を踏まえた単元構造図の作成ワークショップ」

4グループに分かれて、新学習指導要領の趣旨や内容等に沿って、領域と学年を決め、2年間にわたる単元構造図を作成するワークショップをしました。

三つの資質・能力の育成に向け、指導内容を確認し、「何を教えるのか」、「どのように教えるのか」「いつ評価するのか」等について意見交流をしながら、単元構造図を完成にもっていきました。

どのグループでも、例示が増えていることから、「いつ、どこで、どのように教えるか」等、学習内容・評価の精選作業が必要になり、カリキュラム・マネジメントの本質を体験することができました。

また、メンバーとの意見交換や協働的な作業により、「2年間にわたり、単元構成を考えていく大切さ」や「これらをどのように学校の職員に伝えていくか」等、新たな課題も見えてきました。

(文責：清野、高野、長谷川)

